

がん医療社会学

Cancer medical sociology

単位数：5単位

○磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 齊藤洋司 教授：麻酔科学
熊倉俊一 教授：地域医療教 津端由佳里 講師：呼吸器・化学療法内科

1. 科目の教育方針

がん医療社会学においては、地域に多い高齢者や合併症を有する患者のがん治療学として、最適ながん医療が提供できる医療従事者を育成する。がん患者がその居住する地域にかかわらず、科学的知見に基づく適切ながん医療を受けることができるようにすること、がん患者が置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重して治療方法等が選択されるという、がん対策基本法の基本理念を理解し、患者のQOL（生活の質）や副作用対策についての臨床研究、医療費に関するがん医療社会学、地域での終末期医療や緩和医療学に関して学ぶ。がん診療における「対話」の重要性を理解し、地域医療においての多職種によるチーム医療の重要性と実際を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

地域に多いunfit populationと呼ばれる、高齢者や合併症を有するがん患者に対して、診断、病状説明、最適な治療について対話ができる医療従事者を育成することを目標とする。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がん患者のQOL（生活の質）について理解する。
- 2) 各臓器別のがん腫について診断、治療戦略を学ぶ。
- 3) 高齢者や合併症を有するがん患者への対応を学ぶ。
- 4) がん診療におけるチーム医療について学ぶ。
- 5) がん診療における対話の重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

※適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	がん医療における対話の重要性	礒部 威
2	地域がん医療と地域医療医の育成	熊倉俊一
3	I C Tを用いた緩和ケア研修	齊藤洋司
4	化学放射線治療と免疫チェックポイント阻害薬	礒部 威
5	高齢者機能評価の概要	津端由佳里
6	がん治療における高齢者機能評価の有用性	津端由佳里
7	がん医療のメディカルアーンメントニーズ	礒部 威
8	免疫関連有害事象	津端由佳里
9	Q O L（生活の質）評価	礒部 威
1 0	地域がん医療とチーム医療	礒部 威
1 1	地域がん医療における看護師の役割	礒部 威
1 2	地域がん医療における薬剤師の役割	礒部 威
1 3	I C Tを用いた地域がんチーム医療	礒部 威
1 4	演習（模擬試験）	礒部 威
1 5	総括	礒部 威